

委員会視察報告書

委員会名	文教厚生常任委員会
視察地	埼玉県富士見市
調査項目	子どもの貧困対策について
調査目的	子どもの貧困についての実態把握とその対策の先進的な取り組みを学び、柏崎市で進めようとしている実態調査とその後続く対策の在り方に関して、委員会として調査研究を深める。
日時	令和4(2022)年8月9日(火) 10:00～12:00
場所	富士見市役所
調査概要	<p>◆子どもの貧困対策の全体像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気づく、つなぐ、連携して支援する。 ・子ども未来応援センター・関係機関・事業者・市民・市全体の連携として生活困難な世帯に気づき、適切な支援につなげる。 ・家庭：生活困難および困窮している家庭に対する物質的、経済的な支援を行う。 ・子ども：生活困難および困窮している家庭の子どもに対する居場所（子ども食堂・学習・進学等）支援を行う。 ・保護者：生活困難および困窮している家庭の保護者への就労支援等を行う。 ・特に生活困難を抱えることが多い「ひとり親家庭」への支援に重点を置く。 <p>◆夢つなぐ富士見プロジェクト+（プラス）</p> <p>・平成29(2017)年度から令和3(2021)年度までの5か年計画として子ども未来応援センターの設置を始め、子ども未来応援ネットワークの立ち上げや子ども未来応援基金の創設、子どもや若者の居場所づくり支援など進めてきた。基本理念である「富士見市に住むすべての子どもが、夢に向かってチャレンジできるよう支援を行い、貧困の連鎖を断ち切ります。」の実現に向け計画を延長した。</p> <p>◆気づき・つなぐマニュアルを作成</p>

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 貧困対策は気づきから 2. 気づきの機会を見逃さない 3. 情報をつなぐ、支援につなぐ 4. 貧困対策事業(支援)の概要 5. 気づき(発見)のポイント 6. 剥奪(はくだつ)指標について 7. リンクシートと記入の注意 8. 守秘義務の徹底について <p>を 16 ページにわたり、だれが活用しても理解しやすいようにわかりやすく詳細に作成されている。</p> <p>◆子どもの夢つなぐ市民運動☆ふじみ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども未来応援基金として寄付金を募集している。 ・市内で実施される、子ども食堂や、学習支援、その他、子どもや若者が地域で安心して過ごすことのできる居場所づくり事業を応援するために活用している。
視察の様子	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>(説明・質疑応答)</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>(議場)</p>  </div> </div>
質疑応答	<p>質問 1 自治体として子どもの貧困に取り組んだ経緯は。国の法律によるものか、市長の考えか。</p> <p>回答 1 平成 25(2013)年の法律、国民運動、市長の強い思いがあったと聞いている。調査はコンサルタントにより行った。一般層と生活困難世帯等を調べ、生活支援を受けていない世帯でも生活困難世帯があると気づいたため。一般層でも生活困難世帯もある。「子育てをするなら富士見市で」というキャッチフレーズを広げていくため。</p> <p>質問 2 貧困の連鎖を解消することとして、学習支援、学力の向上を目指し、子どもの学び直し相談や支援としているが、どんな相談体制になっているか。</p> <p>回答 2 塾の講師などは NPO 法人に。本人が相談に来ることは少ないが、保護者による相談が多い。具体的な学習を</p>

サポートするというより、将来的なものも含め相談しながら方向を決め、受け皿を探す役割にもなっている。

質問3 貧困の調査の時期は。

回答3 アンケート調査も平成28(2016)年7月26日から8月9日までの間、公的援助を受けている世帯と一般的な世帯を対象に調べた。当初の計画によると、公的援助を受けている世帯と一般的な世帯を比較するような、かなり細かな内容になっている。

回収率は、公的援助世帯1614件中、回答816件50.6%

一般世帯 1495件中、回答888件59.4%

合計3109件中、回答1704件54.8%

5年前は独自のアンケート項目を作ったが、当時と違い現在は国がアンケートのひな型を作っているので、全国的に比較できればと考え、今後は国のものを使おうと考えている。

質問4 学校の役割、学校職員との連携はどう考えているのか。

回答4 「気づき・つなぐマニュアル」により、学校での様子や状況をつないでもらっている。市からのアウトリーチは難しい。

質問5 市が取り組むことによって民業圧迫にはならないのか。

回答5 公的支援を受けている子どもに対して行っているので苦情はない。

質問6 市民全体で取り組み、多くの協力団体があるがどんな理由があるのか。

回答6 市長の子どもたちへの思いが強い。事業立ち上げ時に市長自らプレゼンした結果、地域内に「ネットワーク会議」として根付いたためである。

質問7 絶対的貧困と相対的貧困はどう考えるのか。

回答7 日本では相対的貧困が多いと考える。パッと見ではわからない相対的貧困を気づきやすくするために、「気づき・つなぐマニュアル」を活用している。

	<p>質問 8 「気づき・つなぐマニュアル」はどのように作成されたものか。ワークショップ的なもので作ったのか。</p> <p>回答 8 委員が各関係機関、関係部署等と相談しながら作ってきたと聞いている。</p> <p>質問 9 マニュアルはリニューアルするのか。</p> <p>回答 9 より専門性を高めた上で、リニューアルを行う予定である。</p> <p>質問 10 人口増にはどのように影響しているのか。</p> <p>回答 10 先代の市長が「子育てするなら富士見市で」ということで進めてきた結果、わずかながら人口増加につながっている。</p> <p>質問 11 重層的な支援を子育て支援で取り組まれている。「気づき・つなぐマニュアル」を全庁的に取り組むのか。</p> <p>回答 11 子ども未来応援庁内推進委員会で取り組む。</p> <p>質問 12 富士見市の特徴的な取り組みは何か。</p> <p>回答 12 「気づき・つなぐマニュアル」等もそうだが、きめ細かい対応やそこまで聞き出せるのかというもので丁寧な対応ができていますので参考にしてほしい。</p>
委員会所感	<p>委員会として、視察を通して「柏崎に生かせるところ」をまとめた。</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの貧困調査においては、その在り方、方法、対象者など先進事例を参考にする。・市民が子どもの貧困状況について理解が深められるとともに、その解消に向けた市民運動につなげられるよう民間団体や個人の協力を求めることなどにより、機運の醸成を図る。・貧困対策の入り口は「気づく」ことである。対応する体制づくりが必要であると考えているので、相談や対応の窓口を一本化したり、コーディネーターを配置するなど、組織的に取り組むことができるようにしていく。・貧困の連鎖を解消するために教育支援に力を入れる。 <p>以下は各自の所感である。</p> <p>(重野正毅)</p> <p>市長の強い思いが市民や関係団体の気運の高まりに広がり、貧</p>

困の実態調査から計画策定につながったとのことである。柏崎市では子どもの貧困についての調査を12月前に行うとしている。この子どもの貧困調査は大変デリケートなものであり、その項目や調査方法などは国が示しているものだけではなく、富士見市のように先行して取り組んでいるところを参考にしたい。富士見市としては、現在は子どもの貧困に関する計画の延長の段階で、令和7(2025)年度からは子ども子育て支援計画と一体化したものとしていくとのことである。これまでの取り組みにより、子どもの貧困を含めた子育て支援の在り方を市民が考え、組織的にシステム化された取り組みが行えるようになっていく感じがしている。単独の貧困対策計画の有無が問題ではない。子どもの貧困を市全体の課題と捉え、公が主体となって取り組むべきものとした場合、何を、どのような手順で行うべきかを先進事例として参考にしたい。

(白川正志)

「すべての子どもたちが夢に向かってチャレンジできるまち」「子育てするなら富士見市で」と入間市と同様に市長のリーダーシップによる推進力を実感した。「気づき・つなぐマニュアル」や「子ども未来応援ネットワーク会議」による「子ども夢つなぐ市民運動☆ふじみ」などの取り組みが、地域全体で子どもたちの学び・育ちを見守るまちづくりとなっており、子どもの貧困だけにではなく、多様な市民を巻き込む地域の子どもたちへの関心の強さが子育て環境全般で選ばれるまちとなる強固なベースになると感じた。

(笠原晴彦)

子どもの貧困対策について、ベッドタウンである富士見市において、子育て施策充実を進めてきており、特に貧困対策においては現市長の子どもたちへの強い思いにより、自ら、プレゼンを行い、地域にネットワーク会議を立ち上げ事業を進めている。独自の調査により実態の把握、「子どもの未来応援センター」を開所し拠点とし様々な支援につないでいる。特に貧困の連鎖を解消することとして、学習支援による学力の向上を目指し、子どもの学び直し相談や支援に力を入れている。柏崎市においても実態調査が行われるが、きちんと調査し貧困の原因を把握し子どもたちが将来貧困に悩むことの無い施策をお願いする。現在の貧困家庭はもっと早くに行政が対応していたら解消できた

事例もあるのではないかと。ヤングケアラー、虐待、いじめ、子どもの貧困に対しては、早急な対応が必要である。

(近藤由香里)

富士見市は「子育てするなら富士見市で」を前市長時代からキャッチフレーズとし、充実した子育て・教育施策を行っている。その中でも子どもの貧困対策は、現市長が強い想いを込めて推進しており、実態調査を経て「こどもの未来応援センター」を中心に、非常に細やかな支援体制が確立されていた。「気づき・つなぐマニュアル」などの媒体も素晴らしいと思う。また、民間企業・NPO・町内会などの地域組織や団体、行政が一体となった「子ども未来応援ネットワーク会議」が進める「子どもの夢つなぐ市民運動☆ふじみ」では、市民が「できることをできるかたちで」協力・応援している。市民運動の発足準備会では市長自らプレゼンを行い、貧困対策の必要性を強く訴えたという。また貧困の連鎖を断ち切るためには「教育」が必要という考えのもと、民間の塾講師等に委託して学習支援事業や「学び直し」事業を行っていることも印象的だった。柏崎市においても年度内に貧困の実態調査が行われる。「相対的貧困」と言われる見えにくい貧困や、将来的な貧困につながる教育機会の喪失も視野に入れ、どんな境遇に生まれても、子ども達が将来に夢を持てるような施策の推進を願いたい。